

第33回 県下工業高校建築設計競技審査会取材レポート

令和7年10月14日(火) 午後1時30分 於:建設会館3階大会議室

恒例の佐賀の木・家・まちづくり協議会主催の工業高校生建築設計競技の作品の第二次審査会が行われた。
課 題 【気候風土に配慮した地域の公民館】

【審査委員】以下の通りである。敬称略

委員長 後藤 隆太郎 (佐賀大学工学部教授・博士)
委員 中野 工 (佐賀県県土整備部建築住宅課) 委員 内田 要 (佐賀県建築士事務所協会会長)
委員 小島 啓 (佐賀県建築士会会長) 委員 中野 武志 (建設業協会建築委員会委員)

今回も県下の応募総数は、佐賀工業高校39、北陵高校1、鳥栖工業高校38、唐津工業高校33、嬉野高校塩田校舎4 の、合計115作品であった。本日は一次審査を通過した31作品が審査対象となっている。

公民館は、地域のくらしの中で、住民のコミュニケーションの場として、住民集会・娯楽・講習会および調理教室等の生涯学習場所として活用され、また、災害時の避難場所としての利用される意義は大きい。
今回、気候風土に配慮した地域の公民館をテーマとしていて、高校生のセンスあふれる作品が望まれている。



審査にあたっての基準について

後藤委員長のテーマの解釈について、説明のあとポイントで点数を配分するかなど、意見が交わされた。委員長の感想として

今回は、気候風土の意味が表現しにくく、作品にあらわれていない。自分としては直感的に選んでみた。審査員たちは、作品の内容を十分に検討し文章も読解して、テーマがいかんにか反映されているか、住民が日頃集まりたくなるような公民館であるかを、真剣に審査していた。

作品の成績発表は、来る11月29日(土)、佐賀城資料館で展示さ、表彰される。

知事賞1・教育長賞1・金賞1・銀賞3・銅賞4である
全10作品が選ばれる。

今回のテーマである【気候風土に配慮した地域の公民館】であるが、設計者の高校生が理解できていない気がする。前回の省エネに考慮した公民館では、高校生にもわかりやすかったと思う。今回の気候風土は形がない。地域の周りの環境設定をどういうふうに表すのか、海沿いなのか、山沿いなのか、平野なのか。

条件につけられている、80人適応の集会場、20人程度の研修室、10人利用の調理実習室の関連性など、地域住民が集まりやすい、使いやすい計画になっているのか。

その中で、気候風土を、どのような形で取り入れて、計画できているか。やはり、採光と通風。で、あるが。

今回の作品の大半が多角形の、間取りの組み合わせが、多かった。高校生らしい発想ではある。

経験豊富になると、やれ、収まりだの、構造的に難あり、だの考えてしまう。しかし、若いからこそ思いつく。

ただ、自分のサブタイトルが作品にあらわせているのか。いかにテーマを理解しているかに係ってくる。

残念なこととして、近年、製図の質が落ちてきている、と思うのは、私だけであろうか。現代はパソコンでの製図が

当然であるが、建築士試験は、いまだに平行定規に三角定規である。製図試験の合格率も低迷である。そのためにも設計製図の訓練も、続けてほしいと願うものである。



文章の読解も真剣な審査員の皆さん

取材者 佐賀県建築士事務所協会広報委員

古賀 一善